

# Dr.わーだーの養生記

vol.16

## 「成人式の健康談話(5)」

こち

心血医院

院長 和田 豊郁



酒も煙草も二十歳から。武漢で発生した肺炎は当初は大気汚染と喫煙、感冒薬の下熱消炎剤が悪化要因と考えられました。有害物質で肺が壊れているところに煙草はウイルスが感染しやすくしてしまうそうです。喫煙者の10~15%に、非喫煙者はもっと多く煙草煙感受性があり、肺が壊れて慢性閉塞性肺疾患になっていきます。肺炎になると死ぬ目に遭います。ですから感染予防は徹底して行なわないといけません。煙草は素手で扱います。指は清潔でしょうか?何を触ってきた指ですか?煙草をもみ消すまでの間に指には唾液が付きますがどうしていますか?喫煙習慣は手指の清潔を忘れさせます。エレベーターのボタンに唾液を付け、ボタンに付いている唾液をタバコに付けて口に運びます。喫煙者は感染を広げやすいのです。道にタバコを投げ捨てて踏み消して靴底に唾液を付けて歩きます。そこを散歩中の犬が通ります。家の中にウイルスを持ち帰ることになってしまいます。喫煙はキケン。手を洗いましょう。

### ■ 心血医院

久留米市日吉町14-68 / TEL.0942-65-5129

診療時間:〈月~土〉9:00~12:00、〈月火・木金〉19:00~22:00

休診日:日祭・盆・年末年始